

# 世界に誇れる 専門教育制度

後援会長 轟 修平



長野市の轟修平です。三男が五年電気電子でお世話になっております。私も長野高専出身です。一九七五年三月電気工学科を、やっとの思いで卒業しました。当時の先生方は、ほとんど残っていらっしやいませんが、ご迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。

さて、勉強はできなかったのですが、高専はとても気に入りました。そんなわけで、子供に高専を勧めた結果、四人のうち三人が高専にお世話になり、来年の三月、末っ子が卒業ということになりました。三人の子供が在学中の十二年、後援会の役員をやらせていただき、最後に会長までになり、ありがとうございます。

長野高専には、本当にお世話になっ

ており、感謝に堪えません。そんな立場から高専を改めて見直し、すばらしさを再認識しております。

高専は、一九四七年、四九年に生まれました、いわゆる団塊の世代の方々を、中堅技術者としていち早く社会に送り出すためにつくられました。現在、全国高専OB三十万人、長野高専OB六千人、六割が県内で活躍。長野高専出身の上場企業社長、知っているだけで二人います。すばらしい教育制度である高専、三つの良い点があります。

## 実験、実習を高校一年生から実施、レポート提出など厳しい。

鉄は、熱いうちに打てということですが、しかも工業高校と違って、五年生まである。受験勉強をやらずに済むので大学生とほぼ同じ教育が受けられてしまう。年四回の試験、苦痛なんです、なんか面白い、まるでお祭り騒ぎだったことを覚えております。

## 課外活動が盛ん、文化祭、ロボコン等各種コンテストに参加できる。

工嶺祭(文化祭)がとても良い勉強の機会であります。専門の知識が付くだけでなく、リーダーシップ、納期の管理等、一番注目すべきは、一年坊主が、四、五年生の展示を見ることができ、何年かすると、あんな

立派な事ができるのだ。という自信、期待が生まれる。これは、他の教育制度には無い。

## 十五才から二十才が一緒。

高専に入学してその時五年生は、お兄さんではなく、おっさんに見える。そんな先輩達の行動を見る事ができる。人生の多感な時期を、多様な人間模様の中で過ごせる。先輩から教えてもらい、後輩に教える。こういう事は、課外活動、特にクラブ活動にあります。具体例は、去年のロボコンで下級生のBチームが好成績を上げました。上級生が下級生を指導したと聞いています。先生からでなく、先輩からの指導は、受けやすい。また先輩は、教えることによって理解が深まる。

以上の三つの理由から、長野高専副校長の堀内征治先生がおっしゃったとおり、世界に誇れる専門教育制度と言えるのではないかと思います。

## 高専のさらなる発展

地方を元気にする。という日本の流れにのる高専制度。地方に点在する高専と、地元中小企業との連携。これからのポイントではないでしょうか。

連携には、二つの柱があります。それは、共同研究と企業実習です。共同研究は、開発で企業を助けま

す。徐々に増えてきています。納期等の問題があり困難な面もありますが、ねばり強く進めていくべきでしょう。

企業実習は、長野高専では、四年生で十年以上前から実施しています。また夏休みに実施するせいか、学生は今ひとつのところがありませんが、間違いなく有意義であります。

企業側では、面倒くさいと尻込みしがちですが、メリットは充分にあります。企業の若手社員の教育になります。先程上級生が下級生の面倒をみて、双方伸びると書きましたが、まさしくこれです。企業に実習生の面倒を、若手社員にまかせますと、帰った後ひと味違ってきます。さらに実習に来た学生が、就職することがあります。もう何社も実績があります。専攻科の約四ヶ月にわたる長期インターシップも注目できます。規模の小さい開発を任せることができます。

問題点もあります。私でさえ悩んだ二年生。打開策は二つ。温故知新、京都奈良修学旅行一週間と中小企業家同友会の協力で、多様な企業への実習。障害施設に三日間いけば、カウセリング百回分となるでしょう。さらに進化する、すばらしい高専に係わることができた皆さん。今後とも高専と共に発展していきましよう。